vol. 1
平成26年
5月25日

種継人の会

在来作物はなぜ貴重なのでしょうか？ いや、本当に貴重なのでしょうか？

私は「在来作物は貴重である」という前提に立って考えると、返ってその作物の持つ可能性を狭めてしまうのではないかと考えています。ともするとそれ以外の、例えば市販のF1品種は危険だとか、多国籍企業による種の支配を防ぐとか、極端な方向や価値観を周囲に押し付けたりすることになってしまうのではないだろうか？それもまた必要なことかもしれないけれど、今の社会で見捨てられつつあるもの＝「価値を失っているもの」という前提に立つことが大切ではないかと考えています。

農業は戦後、選択的拡大と称して、食べるために作る自給を捨て、売るために効率良い作物を選択して面積を拡大する方向で進歩してきました。そのお蔭で今の日本には豊かな農産物が溢れています。しかし一方その陰で農山村では高齢化が進み、農業の担い手は減る一方です。これは一体何故なのでしょうか？

一番の原因は農業という職業が「誇りが持てない仕事」になってしまったことが大きいのではないか。「売るため」に特化してゆくことで、農業が持っている「食べる人の笑顔と命を支える」という本来の機能が見えにくくなってしまったのではないか、と考えます。

在来作物もまた、「経済性がない」という理由で、農業と同様に地域から姿を消しつつあります。ですから単に「貴重だ」というだけで在来作物を保存継承してゆくのは難しいでしょう。かといって売るためだけに作るのはもっと無理があります。ではどうしてゆくのか？それがこの会の大きなテーマでもあるわけです。

山形大学の江頭先生は、「在来作物は誇りである」と表現されました。この会の活動を通じて、在来作物を「農家の誇り」から「地域に生きるみんなの誇り」にまで育ててゆくことができればいいなと思っています。今まで一部の農家さんが細々と守ってきた種を、「みんなの笑顔と命を支える種」として育ててゆこうではありませんか。今年は「ほうき草」と「娘来た小豆」に絞って活動する予定です。調査と掘り起しも続けてゆきます。みんなで実り多き一年にしてゆきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

種継人の会代表　布施大樹

年間の活動予定

六月	箒種まき、小豆種まき
七月	草取り
八月	草取り
九月	箒収穫
十月	小豆収穫
十一月	箒ワークショップ及び次年度募集
十二月	箒ワークショップ及び次年度募集

種継人の会では、今年「娘来た」「娘来たか」の二種類の小豆栽培と、河合でたった一人になってしまった横山さんによる箒作りの農作業支援を重点的に活動していきます。

また、交流会で在来大豆をおわけしたかたもいらっしゃいます。大豆の種まき時期など、農作業のノウハウなども共有して行きたいと思います。

それぞれの活動にあたっては、皆様にご連絡お誘いを差し上げますので、ぜひ、一緒に在来種とその在来種を伝えてきた地域を知るためのイベントにご参加くださいますようお願いいたします。

交流会ご参加ありがとうございました ～会費納入のお願い

生涯学習フェスティバル後の交流会、大勢の皆様のご参加をいただきありがとうございました。在来種への関心の高さを改めて感じました。交流会の反省会等をへて、種継ぎ人の会は会としての形を整えて行く準備をすすめてきました。継続した、自立的な活動を進めるため、会員会費をお預かりすることで合意しました。入会ご希望の方はお手数をおかけしますが、お近くの会員に会費をお預けいただくか、あるいは下記口座まで会費の納入をお願いいたします。また、今後のご連絡は基本的にメールで、活動の報告はウェブサイトを中心に行っていきたいと考えています。メール連絡へのご理解とご協力も併せてお願い致します。

会員年会費：1,000円
ゆうちょ銀行
種継人の会（タネツギビトノカイ）
記号：10630　番号：15285671

種継人の会　～地域と食と農をつなぐ～
発行：2014年5月25日
http://tanetsugibito.com/
https://www.facebook.com/tanetsugibito
〒311-0505 茨城県常陸太田市大中町 2606-3
konosato3@gmail.com